

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	世界史発展	特進文系	5	内田
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠） 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート（世探704準拠）				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。				
	観点② 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。				
	観点③ 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。				
授業のねらい・進め方・注意点	近世以降の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
図書資料の活用	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	1 アジア交易世界の興隆 1 オスマン帝国とサファヴィー朝
	5		2 ムガル帝国の興隆 1 ルネサンス 2 宗教改革
	5	3 主権国家体制の成立	
	6	4 オランダ・イギリス・フランスの台頭	
1	7	期末考査	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配
	9		1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄
2	10	中間考査	3 アメリカ合衆国の発展
	11		3 アメリカ合衆国の発展
	10	4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	
2	11	期末考査	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動
	1		1 第2次産業革命と帝国主義
講習	冬講習 3学期特別授業		2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動
			1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	特進文系	2	体育科教員
教科書	現代高等保健体育体育編				
副教材					
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。</p>				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける</p> <p>※1学期は新体力テストが加わる。</p>				
	<p>観点② 観察及びレポートにて評価をする</p> <p>体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける</p>				
	<p>観点③ 観察及びレポートにて評価をする</p> <p>体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。</p>				
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	<p>○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明)</p> <p>○新体力テスト</p>
	5		<p>【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。</p>
	6		<p>【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。</p>
2	7	現代高等保健体育	<p>【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。</p>
	9		<p>【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。</p>
	10		<p>【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。</p>
3	11	現代高等保健体育	<p>【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。</p>
	12		<p>【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。</p>
3	1		
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	ECIII	特進	4	久保田 祐正
教科書	FLEX ENGLISH COMMUNICATION III (増進堂)				
副教材	英語長文読解 プラクシス(Praxis) Level 4 (Z会)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>*テキストの英文・設問に対応できるだけの語彙力、英文解釈力が身につく</p> <p>*設問の解法を、本文設問を通じてマスターする</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>*テキストに基づく別形式出題にも対応できる</p> <p>*初見英文でも、同じ読み方、解き方で対応できる</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>*授業内外の課題に、手を抜くことなく取り組んでいる。</p> <p>(この項目は正解点数ではなく、取組状況のみで評価する)</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>Stage 1では「読解のアプローチ」に関する講義を行ったうえで、サポートノートでPre-Useして予備知識、導入を図ります。それから本文問題に取り組みます。解答解説については、先に冊子を渡しますので、各自で確認、解き直しをすることが基本です。授業では冊子で触れていない知識や考え方を伝えることがメインになります。</p> <p>Stage 2では先に本文問題に取り組み、解答解説に入る前に、サポートノートをAfter-Useして知識を補強した後に、もう一度本文問題をやり直します。その先はStage 1と同じです。</p> <p>Stage 3は仕上げになりますので、本文問題から解答解説、最後に知識整理としてサポートノートを使います。</p> <p>なお、12月までにすべてを授業でこなすのは不可能なので、1・2年次とは異なり、相当量の授業外課題を出すことにはなりません。</p>				
図書資料の活用	特になし				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	Stage 1 - 1	サポートノート知識を得た上でよいので、しっかり本文を読み、問題を解き、正答率を上げることで「大学中上位レベルの入試英文が解ける」成功体験を身につける	
		Stage 1 - 2		
		Stage 1 - 3		
	5	Stage 1 - 4		
		Stage 1 - 5		
		Stage 1 - 6		
		6		Stage 2 - 1
Stage 2 - 2				
Stage 2 - 3				
7	Stage 2 - 4			
	9	Stage 2 - 5	常に本番を意識して取り組む。この段階でスムーズに読めるようにするために、Stage 1と2があるということは、4月当初から常に覚悟しておくこと	
		Stage 2 - 6		
		Stage 3 - 1		
10	Stage 3 - 2			
	Stage 3 - 3			
	Stage 3 - 4			
	11	Stage 3 - 5		
		Stage 3 - 6		
12	(終了後 大学入試演習等)			
	3	1 2		大学入学共通テスト
私大一般選抜 国公立二次試験				志望校突破あるのみ よい報告を待っています。

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	特進文系	2	具志堅
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版), 『2026共通テスト対策問題集Vol.4国語現代文』(河合出版) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いいずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)</p> <p>情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。 ・問題は予習として解いてくる。ノートにまとめる。 ・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。 				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		大学過去問 共通テスト対策問題集	読解問題の演習
2		大学過去問 共通テスト対策問題集	読解問題の演習
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	文学国語	進学文系	2	宮城
教科書	文学国語（数研出版）				
副教材	準拠ワーク（数研出版）、共通テスト対策問題集4国語 現代文（河合塾）、読解を深める現代文単語（桐原書店）				
評価基準	観点① 知識・技能 漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。 作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。 登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ノートの内容に工夫があり、單元ごとのまとめをしっかりと行い、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、 観点①50点+観点②50点の100点満点 で実施する。				
考査	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 語句等の知識（30点）、文学史等（10点）選択肢（接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等）（10点）				
	観点② 演習問題・記述式 （内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等）（50点）				
	観点③ 予習（5点）、感想・まとめ（5点）、 授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、読書活動（5点）				
授業のねらい・進め方・注意点	・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。				
図書資料の活用	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1.『ひよこの眼』 山田詠美	平成の小説を読み、内容・構成・展開を捉える。
	5	中間考査	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
	6	2.『檸檬』 梶井基次郎	大正の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
	7	期末考査 ※共通テスト対策問題集は順次行う	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
2	9	4.『舞姫』 森鷗外	明治の小説を読み、内容解釈し考えを深める。 文学的文章を読み、創作する。
	10	中間考査	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
	11	5.『物語のおわり』 湊かなえ	文学的文章を読み、創作する。
	12	期末考査 ※共通テスト対策問題集は順次行う	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
3	1		
	2		
	3		

2024年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	古典探究	特進 文系	3	大須賀
教科書	『精選 古典探求』大修館書店				
副教材	・学習ノート・新明説総合古典文法ノート・新明説総合古典文法・精説漢文・古文単語 ・共通テスト問題集				
評価基準	観点① 知識・技能 単語、文法、修辭法、古文常識を理解し、身につけること。訓読、句法を理解し、身につけること。文脈に即して語句の意味を正確に捉えることができること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 単語や文法を用いて現代語訳ができること。句法を理解した上で、漢文の意味が取れることができること。作品の主題、登場人物の心情を読み取ることができること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 工夫が見られるノートを提出。しっかり取り組んだワークや課題。発言や発表を含む授業姿勢。文法、句法、単語の小テスト。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 単語、文法、古文常識、句法、語句などの知識				
	観点② 現代語訳、文脈に即した内容理解、表現の特徴の理解				
	観点③ ①ノート提出 ②ワーク提出 ③課題(小テスト) ④授業姿勢				
授業のねらい・進め方・注意点	3年次では、1、2年次に学習してきた知識や技法を定着させて、入試問題に対応できる学力を身につけていく。難しいと感じる入試問題も積極的に扱う。諦めずに考え抜く姿勢が求められる。				
図書資料の活用	岩波書店の『古典文学大系』などを用いて解釈の助けとする。教科書の同作品の別の部分を見て古典文学を味わう。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		読解問題の演習 文法や句法の確認	入試問題を扱う
2		読解問題の演習 文法や句法の確認	入試問題を扱う
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴		特進	2	山本
教科書	山川小説世界史探究				
副教材					
評価基準	<p>観点① 知識・技能 戦後世界の情勢について地域ごとにまた国際関係も含め理解をする</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 戦後世界の特徴について多角的に考察することが出来る</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業で学習した古代以降の歴史と現代を関連付け、関心や疑問を持って学習に取り組む事ができる。</p>				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施				
	上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。				
	1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
	定期考査直前の授業で考査を実施する。				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス					
図書資料の活					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	山川小説世界史探究 プリント	冷戦 スターリン時代のソ連（1953） までの世界
	5	中間考査	
	6		1950年代の東欧と西欧 ヨーロッパ統合への動き（50年代） 1950年代のアジア
	7	期末考査	
2	9		1950年代のインド・中東・東アジア 1960～70年代のヨーロッパ
	10	中間考査	
	11		中国史 1958～ 地域史（ラテンアメリカまたは 東南アジア）
	12	期末考査	
3			

↑↑↑↑
用

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語 (英語)	論理・表現III	特進文系	4	猪瀬
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III				
副教材	PLUS 英語頻出問題 入試必携英作文 Write to the Point、共通テスト10分リスニングプレノート				
評価基準	観点① 知識・技能 文法知識を習得し、客観式問題に解答することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した文法知識を応用して初見の問題に対応できる。また、正しい英文を作ることができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内で実施する小テストをもとに点数をつける。自宅学習でしっかりと準備すること。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験に向けた、英文法分野の実践的演習。解答の根拠となるポイントを自分で考えながら問題を解く力を養うことを目的とする。 ・培った文法知識を運用して正しい英文を書くことを目的とする。 ・原則予習は課さず、授業内で問題演習し、解答解説を行う。 				
図書資 料の活 用	図書室にある参考書を利用してもよい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 1 ~ 2 1主語の決定(1) ~ 2主語の決定(2) 第1回、第2回、第3回、第10回
	5	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 3 ~ 4 3目的の表現 ~ 6時制(2) 第11回、第12回、第4回、第5回
	6	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 5 ~ 6 7動詞の語法 ~ 8関係代名詞・関係副詞 第6回、第13回、第14回、第15回
2	9	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 7 ~ 8 9時間の表現 ~ 10数字の表現 第7回、第8回、第9回、第16回
	10	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 9 ~ 10 11仮定・条件の基本 ~ 13比較の基本 第17回、第18回、第19回、第20回
	11	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 11 ~ 12 14比較の応用 ~ 17.重要表現(2) 第21回、第22回、第23回、第24回
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	日本史 発展	特進 文系	5	小倉
教科書	山川出版詳説日本史探究				
副教材	日本史重要語句Check List(啓隆社) 図説日本史通覧(帝国書院)				
評価基準	観点① 知識・技能 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考查・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。 ・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
図書資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関連する図書室資料を紹介する。 ・赤本を紹介する。 ・課題で、書籍や新聞を活用する。 				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書 副教材	幕府の滅亡 明治維新 自由民権運動 立憲国家の成立 日清日露戦争 産業革命
	中間 5月下旬	教科書 副教材	大正・昭和初期の外交 大正・昭和初期の経済 第二次世界大戦 GHQ占領政策 戦後の外交・政党政治 高度経済成長からバブル崩壊へ
	期末 7月上旬		
2	9月	教科書 副教材	飛鳥白鳳文化 天平文化 国風文化 鎌倉文化 室町文化 安土桃山文化
	中間 10月下旬	教科書 副教材	元禄文化 化政文化 文明開化 明治の文化 大正の文化 現代の文化
	期末 12月上旬		
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	日本史 演習	特進 文系	2	脇本
教科書	山川出版詳説日本史探究				
副教材	日本史重要語句Check List(啓隆社) 図説日本史通覧(帝国書院)				
評価基準	観点① 知識・技能 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。 ・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
図書資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関連する図書室資料を紹介する。 ・赤本を紹介する。 ・課題で、書籍や新聞を活用する。 				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書 副教材	G H Q 占領政策 民主化政策 憲法と政党 占領政策の転換 朝鮮戦争
	中間考査		
	5月下旬	教科書 副教材	講話と安保条約 55年体制の成立 安保条約の改定 保守政権の安定
	期末考査		
	7月上旬		
2	9月	教科書 副教材	朝鮮特需と経済復興 高度経済成長 ドル危機と石油危機 高度経済成長の終焉
	中間考査		
	10月下旬	教科書 副教材	経済大国の実現 バブル経済と市民生活 冷戦から地域紛争へ 55年体制の崩壊
	期末考査		
	12月上旬		
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	政治経済	特進文系	3	芳野
教科書	『詳述 政治・経済』 実教出版				
副教材	○『詳述 政治・経済 演習ノート』 実教出版 ○担当者作成のテキスト・問題集				
評価基準	観点① 知識・技能 ○現実社会の諸事象を通して、国内/国際経済に関する概念や理論を理解している ○現代の諸課題解決に必要な情報を、諸資料から効果的に収集し、正確に読み取っている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○経済活動の活性化、またそれに伴う福祉の向上について多面的・多角的に考察し、表現している ○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、その中で果たす日本の役割について多面的・多角的に考察し、表現している				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ○講義受講者どうしの対話によって、自分の考えなどを広げたり深めている ○情報手段の活用により、自分自身で課題の追求や解決の見通しをもっている				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	観点② ○経済の特質について理解したうえで、諸課題解決の方策を考察できる ○考察内容を他者と議論し、その妥当性や実現可能性を判断できる				
	観点③ ○自身の考察を他者に伝え、他者との議論を通じてより深い考察ができる ○諸課題解決のプロセスを通じて自ら新たな課題を発見し、その課題解決に取り組むことができる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい：現代国内/国際経済のしくみを理解し、主体的に諸課題の解決に取り組むための基礎的な能力を身に付ける 授業の進め方：担当者作成のテキストを使用した講義を基本とし、学習した内容を活用できるようなワークを実施予定です。初回授業・授業中の指示に従ってください。 注意点：授業という与えられたことをこなすだけでなく、よりよい社会の形成のために自分はどう行動すべきか考えてください。				
図書資料の活用	○『朝日中高生新聞 まとめてわかる！ニュース1週間』をはじめ、複数の新聞社による記事の参照 ○授業内容に合わせ、適宜書籍や映画を紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	○教科書 ○副教材	第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義
	5		第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長
	6		4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業 4 環境保全と公害防止
2	7		
	9	○教科書 ○副教材	第3章 現代経済と福祉の向上 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割
	10		第2章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー
	11		
	12		
※大学入学共通テスト・私立大学の「公共」・「政治経済」受験予定者は、申し出てください。			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英語演習	特進文系	2	石井
教科書	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習 (数研出版)				
副教材					
評価基準	<p>観点① 知識・技能 各Clueの学習事項を習得し、実践問題ができています。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 各Clueの学習事項を、別の英文に対しても応用できている。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 毎回の英文和訳作業に、能動的に取り組んでいる。 schoolTakt上に配信する予習教材にきちんと取り組んでいる。</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 予習必須。予習前提で授業を進める。 例題は先に授業で解説→演習問題は予習という流れで進める。 				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習	例題の解説 Clue 1~15 (以降、実践問題)
	5		1 基本構造を見ぬく(1) 2 基本構造を見ぬく(2)
	6		3 注意すべきthatの用法を見わける 4 注意すべきitの用法を見わける 5 関係代名詞は代名詞(1) 6 関係代名詞は代名詞(2)
2	7		7 意味上の主語を見ぬく 8 文末の分詞構文を見ぬく
	9	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習	9 比較対象を見ぬく(1) 10 比較対象を見ぬく(2)
	10		11 名詞構文を見ぬく 12 倒置を見ぬく(1) 13 倒置を見ぬく(2) 14 省略を見ぬく 15 その他重要事項
3	11		※テキスト終了後、入試演習
	12		
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	選択生物	特進文系選択者	2	岡田
教科書	「生物基礎」第一学習社				
副教材	適宜、授業担当者が用意				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書の専門用語レベル				
	観点② 思考力・判断力・表現力 専門用語どうしの繋がりやしくみ				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 教科書上の知識が社会のどこに顔を出すか				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	①教養として 教科書の内容を確認後、その内容が、社会のどこに顔を出してくるかを確認していく。 ②入試準備 (必要な者) 教科書の内容を確認後、単元ごとに問題演習プリント (大学入試過去問の改題) を配布し、対応が必要な生徒の質問を受け付ける。				
図書資 料の活 用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	第3章 生物の体内環境 体液
	5		
	6		第3章 生物の体内環境 免疫
7			
2	9	教科書 副教材	第5章 生態系とその保全 生態系とその成り立ち 物質循環とエネルギーの流れ 生態系のバランスと保全
	10		
	11		第4章 植生の多様性と分布 植生とその成り立ち 植生の遷移 気候とバイオーム
	12		
3			

学年	教科	大修館書店	コース	単位	担当者
3	国語	国語選択	特進文系	3	二瓶
教科書	『論理国語』(数研出版) 『精選 古典探究』(大修館書店)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版) 『精選 古典探究 学習ノート』(大修館書店) プリント類				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく書け、語彙を適切に使えるようになる。(知識) 文章の構成や論理の運びを正しく理解できる。(技能) 				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を重要度の軽重を含めて理解できるようになる。(思考力) 多くの選択肢から正答を選べるようになる。問いに的確に答えを出せる。(判断力) 音声や文字を通じて他者に自ら理解したことを簡潔に伝えられるようになる。(表現力) 				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書を計画的に進める。(計画性) 他者と協働する事で、課題の解決を図ろうとする。(協調性) 協働の末、自力で作成した成果物を期限内に提出する。(自律性) 				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>【ねらい】現代文は、主に世界の分断と個々人のつながりについてを念頭に、さまざまな評論を読んでいきます。また、古典は古典文法などを復習しつつ、名作をとにかく多く読んでいきます。両者共に精読よりも多読となります。それらの思想を蓄積することで、考え方の裾野を広げていってほしいと考えています。</p> <p>【進め方】現代文は、新旧さまざまな評論を扱っていきます。古典は初見で読めるようにするため、予習しないで授業に臨んで下さい。千年前の祖先がどのようなことを大切にしていたかを探っていきます。両者共に時折、問題演習をはさみます。時間の都合で予定している教材を省くこともあります。</p>				
図書資料の活用	<p>授業内容に沿って、参考資料となる図書資料を適宜提示する。</p> <p>興味がある分野の新書を各自1冊読み切る。</p> <p>赤本を随時使用する。</p>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	加藤典洋「敗者の想像力 —『千と千尋の神隠し』」	アメリカ発ディズニーの英雄的物語と比較しつつ、日本発ジブリ作品が世界で評価される理由を解く。
	5	『平家物語』 忠度都落ち	敗者に心を寄せる代表的古典作品
		『平家物語』 木曾最期	
		『平家物語』 忠度最期 『平家物語』 能登殿最期	
	中間考査 - 5/20(火)		
	6	高階秀爾「『もの』と『かた』」 和辻哲郎『風土』	評論の古典的名作 評論の古典的名作
『更科日記』 源氏の五十余巻 『更科日記』 大納言の姫君		平安時代の考え方を理解する	
参考:『大鏡』 行成女の死			
期末考査 - 7/4(金)			
2	9	藤原帰一「超国家アメリカ」 國分功一郎「『贅沢』のすすめ」	アメリカの強気姿勢の根源にある思想 消費社会の際限なさ
	10	『源氏物語』 藤壺の入内 『源氏物語』 若紫との出会い	
		『源氏物語』 葵の上と物の怪	
	中間考査 - 10/10(金)		
11	藤田省三「『安楽』への全体主義」 ブレイディみかこ「災害ユートピアの深み」	日本の現状 非日常下での人の連帯	
	『源氏物語』 母子の別れ 『源氏物語』 女三宮の降嫁		
	『源氏物語』 紫の上の死 参考 『栄花物語』 定子皇后の死		
学年末考査 - 12/1(月)			
3			

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。</p> <p>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する</p>
教材教具	<ul style="list-style-type: none"> □ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ 昨年度から使用している探究ノート □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	<p>志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	<p>前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

三学期	
-----	--

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。</p>